厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

H30 年「患者体験調査（成人版）」に関する研究

研究分担者　脇田　貴文　関西大学 社会学部 教授

研究要旨　平成 30 年度に実施された「患者体験調査（成人版）」に関して心理計量学的観点から分析を行った。特に回答選択肢の影響、欠測値に関して検討を行った。

A．研究目的

平成 30 年に実施した「患者体験調査（成人版）」のデータ分析を行った。その結果をもとに、現在のがん医療の状況を把握することを目的とした。

B．研究方法

調査のローデータから、各項目の特徴を概観し、因子分析等の心理計量学的分析を行った。

（倫理面への配慮）

データ収集後の分析であるため、特に必要としないが、データの保管・取り扱いに関しては細心の注意を払い行った。

C．研究結果

調査結果から、前回 H27 年度実施に比べて、欠測率が高くなった項目が複数存在した。一方、選択肢の表現を工夫したことにより H27 年度実施に比べて、項目の天井効果（フロア効果）は減少した。

D．考察

欠測率が高くなった原因として、回答者の調査に対するモチベーション、項目数、回答形式、　回答のレイアウトが考えられる。特に、Likert 法部分の欠測率が高くなっていた。これは、見た目として項目数が多く映るため回答者の回答モションが低くなったものと考えられる。

回答選択肢の工夫に関しては想定通りの結果が得られた。しかし、選択肢表現を変えたことにより、H27年調査との単純比較が困難であった。今後調査で同様の項目・選択肢をしようすれば、比較可能なものとなるので、今回の変更は必要な所作であったと考えられる。

E．結論

欠測率の問題は、調査票自体の項目数にも大きく影響される。紙ベースの調査では、実際には提示されない（回答する必要のない）項目であっても提示される。回答者の負担を軽減するため、より必要情報を得るために、Webベースでの調査を検討するべきであろう。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1.　論文発表

なし

2.　学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし